

総合生活学科 カリキュラムマップ

カリキュラムポリシー
(教育課程の編成・実施方針)

ディプロマポリシー
(学位授与方針)

区分	学びの内容		1年前期 20科目28単位	1年後期 24科目35単位	2年前期 22科目34単位	2年後期 17科目24単位
	枠組み	内容				
教養科目	教養科目		ベーシック・イングリッシュ イングリッシュ・スピーキング 色彩学 初級韓国語 熊本学 日本伝統文化入門	イングリッシュ・スピーキング ベーシック・イングリッシュ 実用観光韓国語 心理学 健康スポーツ 日本語表現 数理・データサイエンス・AI入門	Communication Workshop 地域住居論 くらしと人権 花と着付けと茶道	観光文化学入門 くらしと憲法
		キャリア		キャリアサポート インターンシップ	キャリアサポート キャリアサポート応用	女性と社会
専門科目	基礎		基礎セミナー 情報リテラシー入門Ⅰ 生活経営論	住生活学 情報リテラシー入門Ⅱ	衣生活学 食生活学	卒業演習 社会福祉
		医療事務・情報ビジネス	職業基礎A 職業基礎B 情報応用 情報理論 医療事務	社会人必修ビジネス基礎 資格直結のPC実践技能 文書作成・表計算の技能 情報技術についての知識 病院・医療事務基礎	ビジネスマナー オフィススタディ(秘書概論) 簿記会計 医療事務総論 医療事務実務	トータルビューティー論 文書処理応用 情報リテラシー応用Ⅰ 情報科学 医療事務実務応用 生理学
専門科目	福祉ウェルネス	くらしと福祉	福祉の基礎	介護概論 保育学	福祉援助論 介護技術Ⅰ 介護技術Ⅱ	社会保障論
		実践福祉	福祉の実践的知識・技術	介護現場と心理 福祉事業論		
専門科目	生活デザイン	健康生活	運動と健康	フィットネスダンス		健康科学 生涯スポーツ論
		レクリエーション技法	レクリエーションによる地域交流	レクリエーション概論 レクリエーション技法 ボランティア実習		
専門科目	生活デザイン	くらしと心理	より良い生活のための心理的知識	対人コミュニケーション メンタルヘルス	死生学	
		インテリア	「もの」の素材やデザインとそれらのコーディネート	インテリアコーディネート論		インテリア演習
専門科目	生活デザイン	くらしと住居	住まいに関する知識や住宅設計製図の基礎		空間表現演習Ⅰ	福祉住環境論 空間表現演習Ⅱ
		アパレル基礎	基本的な縫製技術	アパレルメーキング実習Ⅰ	色彩構成論	アパレルメーキング実習Ⅱ アパレル材料演習
専門科目	生活デザイン	ファッションビジネス	ファッション業界の基礎知識	アパレルデザイン論		ファッション販売論
		フライダル	フライダル業界の基礎知識		フライダル入門	フライダル実習
専門科目	生活デザイン	フード	生活に必要な食知識・技術	製菓理論	フードブランニング実習	食育とおやつ
						製菓実習 スイーツ実習

CP1 基礎的能力及び幅広い深い教養を身に付ける教養科目と、専門の学芸を身に付ける専門教育科目によりカリキュラムを編成します。

CP2 教養科目は、大学教育を受けるために必要な学力と社会人として求められる汎用的能力を養うために、「教養基礎」「外国語」「人間と社会」「自然と生命」の4領域により編成します。

CP3 初年次に基礎的素養を身に付けるための授業科目を置き、その上に専門的知識と技能を積み上げられるよう授業科目を系統的に配置します。

CP4 専門教育科目は、キャリア教育を含め、ビジネス社会に必要な知識・技術を身に付ける「医療事務・情報ビジネス」、福祉現場等で必要な知識・技術を身に付ける「福祉ウェルネス」、ファッション・インテリア業界等で求められる知識・技術を習得する「生活デザイン」の3つの領域に区分します。これら3つの領域の専門知識を習得するとともに技術を身に付けるため、講義の他に演習や実習科目を配置します。

CP5 実践力及び応用力を伸ばすために「インターンシップ」「卒業演習」「女性と社会」「ボランティア実習」等の科目を配置します。



DP1 文化・社会や自然に関する知識を体系的に理解するとともに、主体的な学びを通して豊かな人間性を培い、良識のある社会人としての教養や態度を身につけている。

DP2 生活に関連する情報・福祉・健康、アパレル・インテリアの領域において専門的知識・実践的スキルを身につけ、実生活に活かして役立てることができる。

DP3 自らの倫理観・職業観を確立し、現代社会の諸問題に対して主体的に考え、行動することができる。

DP4 様々な手法による情報活用能力を身につけ、様々な人々とコミュニケーションを取りながら、自らの意見を適切に表現し、良好な人間関係を構築させることができる。

DP5 多様な立場の人々を理解するとともに協力しあい、地域社会に貢献することができる。